晉子句解

中村俊定文庫
文庫 18
917
2

俳諧

みちの草

晉子句解

表嵐肝螺窗翁遺稿

其角堂永機編
小築庵春湖校

曉

哥ニハ一字解ヲ以俳諧ヲ入キリ解ヲ
一字ノ解ヲ句中ニ所ラシ

をしやうの閨をうかがひて　梅の花

長上の人ゝ梅を賜るとて曉閨のあけぼの起て枕をて

折詞意言外ゝ

折枝の意を含むなり

中村俊定文庫

和心水推敲之句

きさらぎ時よりさきみそめし梅の門

心水の詩に若紫のこゝろの侍云愛君滑稽一時
豪雅字帯霞入彩毫想見梅花門裏月不知
誰与定推敲ときし推敲ハ賈嶋の故事ぬ

梅津氏　の祖父武坂表の軍功によりて
帝感状　帝より刀を授戴せられ
十七の名と共に此外　上杉　隆氏　契等の
家臣十七人ときしるのあつらえそ

正月十七日　梅津氏の屋敷にて其雲　衆督
熟樹としたしびきものの咲きあ
幡おを文墨　服部　もあ　みを
梅津氏軍功ありし時の旗持の子孫ぬぐ定て永用
せられし今この文墨賜をつたもるぬ
取合せとしる此意の乃偉句トロ　ほそし格り

筆ぬ　はみ　ゆ　是　や　の梅
ぬ　ゆ　能の間狂言　観音ぬ想の腰巾を
冠りて八ぬ　ゆ　ぬ　言意を　ゆ

やまの梅を言ひたてるし　極上是則の作なり

かりのはるはまつのあけぼのとかこしたる

君なり

接木を画て

木ぬきもるの中　継ぎ合つてつゝん

接木　素盛　永寿の梅のさくら　桜やこえつゝん

思ひのみを君ぬ耳まもるゆ　弱きよりそ接

接木を言ひけるゆ

万なきふまも　朱雀の柳と作り

所々の作　おもし

さきしこ　西の鹿　万葉　朱雀　今の京

万葉と朱雀の柳とこまかもの名なれ　万葉の時代　作ることなし

催馬楽　緑　作きもやこいき形ぶ

とあけくとみるまて　玉光　ひひる　ちん

きやうまぶ　作きまぐいるあとなる

せんざい　杜　きなこ　めはいきやなき

と作ちんきやう　新京　今の京

けん文例の活気　牡　撰　とそ

黙印半面美人の字ゝ琴の中ゝ備
えんをはらして冠里の万句の巻々
抑弘めはるゝ
まの序聖ゝ
冠里公万句の褻を師と仰なりし時五十点の
カクシ形をよしたる八市机上の文鎮を
くゝゝ色ゝゝゝゝを角とシて草庵住ゝ
と
蘭のいろ
ゆゝ郎あいさつ
閑の秋のをゝあいゝ人梅の袖

をゝ形いゝ不居ゝ
我宿ゝして
國形ゝし

梅干や柳の曲をつゝふ　祖

鞠の郎を精代の郎と云　猿田彦し鞠ゝ衣紋湯し
柳形ゝし形ゝ云ゝ伺ゝ國道ゝ清水寺の高量り
梅干を鞠を踏ゝ見ゝし
春雨

紐ゝ立てゝつゝ唱るの雨ゝゝ
紐の謡ゝいゝ面ゝ作ゝ

[illegible] 句画讃[illegible]

階子[illegible]ふ[illegible]乃ち燕[illegible]

万世[illegible]鳥総立て[illegible]

[illegible]の[illegible]鼓の[illegible]

雞林の海[illegible]その古鼓ハ[illegible]

[illegible]

仁和寺

以おつるの[illegible]

金剛經ニ曰 [illegible]幻泡影如露亦如電 仁和の帝ハ

[illegible]

懐古十分也一句ヶ向[illegible]且種

[illegible]

[illegible]

白詩 臺頭有酒驚呼客

雞冠谷[illegible]

山里ハ人も[illegible]

[illegible]

月清集さうあ白ハ記臆の誤ナリ

花ゝ[illegible]

雲林院ノ謠 まことの風ハ吹ぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心ちかき所ゝ[illegible]

西行の画の讃し 心おきハ彼時ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]十五[illegible]歌[illegible]人を[illegible]十五[illegible]の[illegible]といつまで
一面五[illegible]やたらいつまで[illegible]帰[illegible]らん
[illegible]の[illegible]ふまで[illegible]ふきて[illegible]
吟と中[illegible]方[illegible]

[illegible]言雍州府志に[illegible]所東福寺つ[illegible]大和大道[illegible]小橋五[illegible]
[illegible]と一の橋[illegible]五を二の橋と[illegible]橋五[illegible]の吟一二の橋の
[illegible]おし向意間に[illegible]容す[illegible]

林中不賈新
せ[illegible]山[illegible]

[illegible]

席令移て上京[illegible]義

西行

[illegible]

[illegible]し都のそ[illegible]山連と金
揚別霍とか[illegible]り腰纏十万貫騎鶴上揚別の
意[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

古今物石

西行と[illegible]
[illegible]
[illegible]

ことはうと

此碑ハ江を哀まめる蛍火

元禄元年ことはうと報生禁制の碑を遠る

唐哀江頭と碑ハ叙子墮淚の碑ト云

遊子殘月

鄙の月涼しき

住ものゝ心を切まさ山里ハ何まう

くまなきを五年の月かな　像成

夢の仙貫之の古屋を

冠ふ指をそふめり夢月沂

もゝ實定とい〻厳島に冠を奉りし時

りふより八紀の貫之と云る也　此の實定ら

野貫七八　厳上洛さら　白河ふり

ゝゝゝゝ

大ぶんけの内ちゝ扇ゝ印を立て生の松ハ〻の

うらをゝ

木曽路や源義仲の味を志る

新古今　藤原の后氏皇后

すゝ　ハ生の松ハ〻　ゝ扇の

ゆ　ハ　ゝ

韵塞に出る　扇の形を畫し　許六ゝ跋し

[illegible]

筆技月ふ掃もしまする也

[illegible]

維摩の居し

山のそハ大衆こしらう庵の白

三千の大衆を僅方丈の室に入るハ維摩の法術なり
山影入門雖押不出　山の陰を大衆ことく
[illegible]

毋と月つけるふ

[illegible]雨元改り十三枚

[illegible]

宗因[illegible]

[illegible]ハ元治都の二百貫

[illegible]と[illegible]

二星[illegible]むの[illegible]十五

白氏文集　隣家釀根歳

送り火や空の煙十文字

大文字や山の樣なこゝろ迄　定家卿

蜩子百三部を悔て

形新しうつゝや蹴る秋のせミ

氏こ蟬鬢引雲着トいふ　源氏さ丸蟬の

うゝをつゝかなくきまん原芝山さ物ゝよ

中の御もと

幸清ゝ蛍の淵ゝきや青松

幸清淵ゝ命八小鼓の聚ゝし　郡の淵ゝ松風ゝ立ゝ

寄のまゝきの淵ゝ迄トいふ　源氏の淵望月八ゝ

三蛍奉納　俗名一両といふ

子稲酒や稲荷もいもの民姫ゝ

文孫年間三圍社四ゝ焼ゝ葉ゝ焼ゝ

呼ゝ狐ゝ奉ゝ供物ゝ持ゝ参ゝし　宮社の

民位ゝ彼姫ゝ石像ゝ

図ゝ云草堂再建の形　隠舎秀民家俗し

井ゝ姫ゝ　ゝ二百年ゝ古井ゝ

姫ゝ　ゝ社殿の旧記ゝ

やゝ　ゝ社司の家ゝ

[illegible]

何ぞ昔ほとゝぎす[illegible]仏弟の音さ

奇端何ぞ[illegible]

餞青流線後

芦刈のうゝを喰ひてきあるゝ

大和物語

若狭人とあるゝ[illegible]何ぞ雑俎の

浦ハまもゝ[illegible]

[illegible]

何ぞ[illegible]

浦ハまもゝ[illegible]

ひものゝうなゝ女冨て男まつ[illegible]きさまゝ[illegible]

冨て[illegible]

御[illegible]て世ゝ[illegible]

隣家なる[illegible]

大絃小聴ず之絃

琴巷行ニ大絃嘈々如急雨小絃切々如私語ノ大絃ノ

之絃軍の音を所て作をさもさるし[illegible]

其之柱を言ず

太宰二帝の貝をとりて

[illegible]出ず貝ゐをとりて

拳人の芳野より入て熊野[illegible]七十里の間の

塩沮し

松のもとその沢さけ醤油　[illegible]

支考集　まつけのかへ[illegible]

何月の山下水のしたなん　[illegible]

[illegible]山

鶯押やこの岩根乃ひみち

[illegible]

十八町の岩屋を九文ましこを何しかれ

いつ迄紀行か仮ま[illegible]

名ちなしこの[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　鶯押の

[illegible]

林間暖酒焼紅葉　白詩の意を和[illegible]

[illegible]

[illegible]

平泉[illegible]

上よし切[illegible]

白扇倒懸東海天といふ句つゞけいふべきを
和して手をはなさるゝ時せるてのの
有とこそ夢立ぬ山の半腹ゝゝ
つゞけ[illegible]ゝ[illegible]いそんゝ
[illegible]ゝ　白扇倒懸東海天

白雲の西へ行き雲門普賢富士

江戸の富に普賢ゝゝと呼ぶ舟八白象に乗りて
雲ゝとかゝり白妙の白雲まとあ[illegible]て雲空へ
[illegible]ゝ　古文孝集ゝ　秋風起ゝ白雲飛
ゝゝ一句の上秋雲ゝ[illegible]

吉田氏

唐櫃の家を[illegible]ゝ向ふ

[illegible]氏携[illegible]この[illegible]ゝ[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]机の四隅ゝ[illegible]を
張り[illegible]し佛ゝ[illegible]向ふ[illegible]
又花を[illegible]の香を[illegible]包て[illegible]の[illegible]
張り[illegible]ゝ佛ゝ[illegible]ゝ[illegible]櫃の[illegible]
やうなるもの[illegible]　中七の字[illegible]

守山の[illegible]ゝ[illegible]菖蒲[illegible]

大津地方より[illegible]る山のいちゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

生涯新五郎上京より
祇の床の扇買ふ事
けふ自河自昔の他よりふる雨
蓮の扇をつくるふるハの
陽をとり何日ハ買ふるの天明とな
とゝ有の一車とのお炭
賣炭翁 苦宮市の意を表ス
滝口や池の 鶯 滝口ハ人名
横笛といふ女名を採り
平家物語ハ

矯屋

窓鉢の手し世を時代雪出
元和の比ある人窓ひとり自二百文の
課役をあたりしこれ窓銭ト云シ

のゝ中ハ眠深て
三年志 刘伯倫ハ酒ふい過て
刘伶字伯倫 作酒徳頌
煩掃て花ハ女房ゆ
万葉集 鄙ゆ門ハ
ゆのゝ寿 ゆ

八津彈

千觀の一るひせかしの者

千觀ゝ僧し元亨秋書ゝ寄

八津の訳は馬士たし世を安ゝ七人也

隱逸伝のたとへ

右五十章八螺窓翁遺草の粗釋也

百韵

楚石和尚の作る猫竹の賦

光りはなつ霜の一つ

塗鞋の暑襪の暑襪の暑

世間の暑襪の暑襪の暑

暑襪の暑襪の暑襪の暑

日和の暑襪の暑襪の暑

まの子の巣をつくる立習ひ

なかなかに立習ひ入る

嵐軒屋

永機　京雲　梧陰　玉義　古井　蒐好　まゝ好

ウ

廃園をはらしし野ばかりの
ちりいろ
ぬきてみて六人よりあめさんぬ籠
くるの暑もよい気もち
武蔵国ひろ霞とろ
歳七夕と廿房新
姉とうのもるもて形こて有馬筆
岸の河しとつもちのくちち
青園の部 月秋まつ
ろ中 時ほてて角力ばらく

梅雨
田我
空仙
岩月
三井
梅章
嘉吉
松女
三穂

拾一

二ウ

拾小ほを頃うなるいるもの
墨へこ不ず水のひろ氣
とかるを行ろ墨るるまき
雑子時ろる世る筒音
かい間る墨ち墨代ち墨る
今町とこの頃用しし飛
時ろ行の中ろ工ち
眼くもも中ろ酌ろつと立
ひろもの頃町ろ山ひち
部まろる部 寂ろ

梅新
玉仙
静和
柏我
正雄
麦寸
雪居
泉雨
華水
玉水

道つきの潟上りしかとも形ちとゝ
亦亀甲のひるまを河岸
おもものとゝ蓑の筏宿　孝貞
しめ香車に附床引きく　柏号
敷条の河の魚板をとゝ気を当て　光賀
ちらしとゝ義す唯の行りく　晩菊
月の雪と合め二階を清地ふく　梅窠
所ゝ作る足袋の封切　永園
二ウ
酸漿ま人作なるつ紙古文　布川
蔵石ら形ゝふすゝ意舞　ふ及
　　素亜
　　文鄰

門をを結ゝむ廿　三四人　樹素
こゝ飛小巷を春ひたるとう　永二
角の子ちなる出を　貴峯
葉き作ゝを是ゝ　安岱
どゝ小ゝと見野ちを　春江
ゝ神の上を猫ち飛ゝす　雪雨
す落の裡ちを意俗て　酔南
水ゝ方の面ち鯛ゝき　梧陰
石塔を雪端の行を猫ん　柏瓦
ちを鯛の利ちを　吳仙

白雲の海の膳都立
のみちを素くか嘉
三ウ もちろん行の小舟帰殺
鵜おくられあるかもの
羽二重を嵐布子見る堂
ふつふつ砂を隠す心
時ともやゆ室のきを
醜濃の海に九せる
今おもしと行の高佛人人ぬす
家移ふとうとしりあこうそ

春潮
採茶の
素石
空往
源塔
熊谷
精舎
附徳
大智
古象

筋しに降ちとしけ時ふ雨
人を中とし所す明楼
むつとして居ふ都ふと
寝ふちを芝ふ義の報ふ
節ふて月の清ふのふ人しき四
平内ふ ふふ 慈のふとふに
三ウ 浅ふ蜂河ふしふ八我體
ふふふ三ふ秋迅沢竹先
秋の青の河ふ八沢の強ふ中ふ
書の 筋を 意ふ 筋ふ

青我
長隆
宇山
河山
寿吉
成雅
学笠
素水
国好
美児

高雪の遊立てる　表甲
光のうちに　狭き門口　鶯石
何の花とも　下戸の仲間　花全
聞えぬ　一番　匠月
謡　流器
風の涼　吹く間の　深美
そよぐ　園丘
茶の香　の各物　蓮宰
ふるひ　去る　碧海
遠祖の中の　倫　梅年
陰うつ　日蓮　孫の　蓮州

ナラ
学問とは　一切経　會まと　深す　本窯
孫とは　孫の　孫て　巨石
学者の　月方の　柿蔕訂　竹溪
つくづく　遠い　訳の　樣子　龍吟
白雪の　巡る　限り　樣つ　狩職
夏数　あり　盆　の色　書畫
常暮の　海　る　書物　織　遊作
知らし　る　姫の　孫く　音江
孫を　牧　の　孫て　梅美
柏葉　琴　女の　清さ

[illegible]

真峰

[illegible]の雲[illegible]

柏子[illegible]の音　柿栖

[illegible]　[illegible]　[illegible]の月の夜　[illegible]義

蘭[illegible]笠よ　面れり峰　自　亀越

信心[illegible]秋[illegible]と[illegible]な　秋葉山　芦水

ナウ

[illegible]の[illegible]ある　[illegible]　[illegible]外

[illegible]入る[illegible]　[illegible]外

[illegible]護の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　稲所

[illegible]　[illegible]　[illegible]

全世界[illegible]花咲て　酒[illegible]

[illegible]　[illegible]日　[illegible]

百貫[illegible]通八

[illegible]　[illegible]新　[illegible]

[illegible]の[illegible]　一影

山[illegible]　[illegible]海　[illegible]

[illegible]　[illegible]　羊山

八幡谷　[illegible]岩[illegible]　[illegible]小[illegible]月　静庵

神祇

[illegible]尺神宮一法[illegible]　其角

[illegible]馬屋[illegible]　嵐雪

[illegible]の神社

[illegible]八[illegible]　徂徠

[illegible]五十串[illegible]神　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]月の[illegible]　[illegible]

[illegible]神[illegible]の[illegible]　雪[illegible]

[illegible]と色のわるい[illegible]　春江

[illegible]　枝山

[illegible]　涼岱

[illegible]大根[illegible]　徐來

[illegible]　[illegible]

[illegible]里[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

三遠

[illegible]　神の道　[illegible]

釋教

佛ともたちたちの世をすてし時八幡の佛生會

嵐行居士三十三回　舍利文略

真角　嵐行

春湖　芹舍

蓮子　湖水

深美　孤秀

波色　青歌

益色　十湖

無波　竹苗

敏樹　極繁

大香　素石

妙法の心中をいたしてこの供養

一切衆生昔きたるふみ四つ

みめぐりの春かすみ　きたる一年回

春のはちすの濁を見て忘

新年の花何ともの侍もあ

ことのはをこめて回向

古井戸こそ緑はさめ　月の暁

草の風ふきはらへ　秋の雲

月新たにすめる軒の梢

お膳に取る間さへつらき暑かな　素友

蝉の声茶店とてなし行く野道　鴎笑

稲葉やそよぎ立の品さまざまに　乙瓢

何と取る花はなし色違へ　二蕪

露の戸や草一つ生ぬ寛象　出岸

それとは世の節になし別象に　素丞

追福

みのむしや三十年の秋　永機

けふも海しさみしさ寛うつ　梅年

夏

小鍋城打てなかんとしの望　其角

むかしや法蔵坊の境建　嵐肝

やまめ千成さてもかし

色まなる男もの色かし小袖　写志

着明さて卯月の涼こそ　木栽

母と娘のとし越青簾　静和

かはり見る隣家とちの草の露　素水

深川 新町

ミし縁る尽を人の山の月　呉仙

送らし柳また釣送る　女 露英

[illegible]

[illegible] 地高

[illegible] 華谷

[illegible] 宇山

[illegible] 春湖

初雪を生の葛とせしの高とせ祖先の口質形ら
[illegible]

白雪を生の葛とせしの高とせ 江郷

無常

辞世

[illegible] 秋の暮 嵐盃

代野の焼もてしの骨を [illegible] 其角

妻の [illegible] 茶碗の [illegible] 華谷

水月の [illegible] 蓮宇

[illegible]

[illegible] 玄雨

[illegible] 冨水

時雨　ふる雨　降る日　魂　絵　海舟

又の遺骸改葬の時
起るものの形をかきて

村雨や新髑髏に降ひかり　知徳

各所　地名

三尺の砂を西方の一　なるべし
ひろくして坂やうなる砂や三稲の板　其角
墨水　嵐雪

花ち錦　ふるゝ織り　町くも　過堂高
こゝ面の秋ちる時東すゝき
ひと足を春ち濃ちてまゝの梅　成高　杉山
佐蕨ち杉ち色ちや　京の町　素石
おもふ所　京のゝ　貴峯
墨水　高こゝる　嘯ちて　大社

みのかし雨の降りし也すまし川　竹良

不盡にも人しつかり壬生踊　永二

稲負鳥やりうの蓍し竹矢　芳涯

時雨来さし秋去りや佃沖　甫山

稲もう秋深くの峯のいかし山　對凡

さゝし船も只一夜草のかげ　幻草

大原や小塩やみる花見ふり　蟹壷

阿弥をはらう涼気の涼しさ　梧沙

春の様子撞き蓍して東山　禾碩

時ふ山や命しまし千松島　喰沙

三めくりた蕪の文字し啼蛙　蘇山

筏も月くるんや宮戸川　淺江

不盡の高引早す水鶏の秋　鶴村

新酒や稲毛の餘の日和かな　魚芸

岩遊や錦綾をのそむ郷のとまう　白字

武蔵野の月は向ふて旅の秋　竹叟

筑日山さつきの雲も隠れけり　捨山

清らき地や涌るらとてる竹生島　三巴雄

牡丹ま行運るやり箱根山　華石

子宿とる唄うめつりし羽海陽　雪立亭

二三段ノ立木ヲ過ル川　徂徠
陰艸ヒヤヒヤトスル　まつ雄
まつの乃ミ面影ハ善光寺　雪洋
五谷の用言ハ　お刻
岩ヲ越ル滝ヲ　もゝ
高野

とゝ　吹ル風世の苦の院　永樹
世ヲ立ハ春名ヲ岩ヲ　正義
十二天　即ち法ヲ見ル　清水ノ一なの　一歩

追懐

子ヲ戒ル人ハ歌ハ　其角
花時の明ヲ姉ヲ　嵐雪

寿ヲ
子ヲ種ヲ　笠仙
世ヲ世ヲ　梅幸
生ヲ成ル　涼坪
ヲ人の上　和歌
ヲ　東京　暁雲

[illegible]　三藏
[illegible]　お淺
[illegible]　桂花
[illegible]　年出
[illegible]　金羅
[illegible]　吉宜
[illegible]　古秀氏
[illegible]　梅恵
[illegible]　小樹

旅仲

[illegible]　其角
[illegible]　嵐野

道つゝの足の弱さよ　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

夕陽を隔て渚の松原に
岸の上に落葉しつゝ友こゝろ　鮮雨
霧しぶきの中に菊の香の心　蓼園
落ちの芝の中に鳴く虫　この金
裏畑の山根に行かう夕焼　雪雨
主面の谷の谷　舊雨
日向の雨の文　醉雨

夏の深し山寺の九十九折　法雨
陸九と鶴の巣の夕の暮き　梅年

祝

祝壽

たゝ風の吹く瞬の緒つゝ　甚角

西城市の幌の祖父志剛君直伝の
奉祝の詩を以て筆を
立ての文を作んとて
もく思ひ出でて
考へ合せしの

子のまゝ孫おとて根さし　竹男　嵐舟

竹青佳色

門陰の白の清の世界の艶　樹壽
竹箸の青さ世の河の　緑亜

迎へ来て植しめてきし小松かな　志ゆめ

吉日よそよぎて添し鳴の音　堯好

寒菊やとり合せよき紀小倉盃　白鶴

子を連し雀は葛の梢より　二葉

御降やとしの姿の見えわたる　本阿

新年や古き基の行へ道　指直

しめ飾若の子孫とし合せ　巨石

ちりぎはも見事しめ家し柏哉　精知

田路の尾鯖さ来るの色　亭雲

来る代も雀の踊る梢かな　松峯

いさよひのゆきの山の小盃　梅浮

山さむし雨植て来る鶴来る　壮山

美しく水を流るる川の淵かな　素青

勝扇ぬれてく渡る田の露の雫　卜早

新年

鶴の声何れ御代の川の松　詢美斎

天下泰平を祝して
万民凱歌をうたふ

蝶も舞す風の行きたる和　永樹

卯時混沌

もの移る点滴ひかり深く夜
明めく酒のちかひかくら
前代戸甲を一二枝夏の以前

松翁
化堂
静湖

ゆるくて動めの白雲の
葉戸を開くと早し初燕

柩富
金蘭

京都やきいの蕎麦ゆるとより
灯ともしまきの雷かの多
桂くひやうし水呼ぶ梅の郷

連水
梅宮
乙亮

山陰の陽とも知し梅の京
京市戸開くつ多きの風

月色
如竹

月代四一時の河の河し
赤くも花野八十一雨幸子

不角
環九

品月ひもて明花のの時
山とれて巷の唱白ふ郷の

風雷
蕎古

凍しまつきの白黒四月と海
蕎つ四て人よ湖白夜麦こ

曙屯
芳泉

京都戸出て白明新戸
よの草てまきれ行く青道

蓼精
東古

石竜
芦葉
梅旭
陽画
旭扇
其砂
呂長
宗郎
蓑鶯
月光

雪重
文海
三郎
小窓
黄松
山疑松
梅水
素梅
為流

[illegible] 孫綽
[illegible] 高島
[illegible] 仙馬
[illegible] 多久
[illegible] 袖九
[illegible] 笑海
[illegible] 田種 唄
[illegible] 素川
[illegible] 中洲
[illegible] 深川
[illegible] 素行

[illegible] 井賀
[illegible] 五春
[illegible] 素陽
[illegible] 紫帖
[illegible] 百汲
[illegible] 日静
[illegible] 晩天
[illegible] 陶策
[illegible] 一山
[illegible] 雪尾

[illegible] 自然山　他山
[illegible]　文祝
[illegible]　柏鳩

[illegible]の色吟に對する

[illegible]の花鏡　魯文
[illegible]の茶　蓼泉
[illegible]　梅亮
[illegible]　野牛
[illegible]　半仙
[illegible]　浪古

第士正月八日[illegible]風[illegible]枕の[illegible]　厂嶂
各月[illegible]　世雪
[illegible]八里中杉深の[illegible]　[illegible]の水
[illegible]　[illegible]の[illegible]　龜石
三月[illegible]氣を通[illegible]　[illegible]
水[illegible]　柏号

詩具自題

立[illegible]　家英
庵の[illegible]　素水
[illegible]　中庵

降りつもるまきのかきねに　孝基
物とうとくもりくる　移櫛　松月
はるの山ぶきの花　満るまくに　櫛一
咲ぬ　江波
雪ふる庭の　古庭

雅

降とてはるのもえぬる冬士の雪　永樹

俳諧

みなとの尾

芳流七世乃子永孫愛ハ子と共
先考愛宙居士の法号を以て
なを居退福居士と遺稿の号を
中なる事を表ひる解脱
上来て天ハ
つくるの名あり嗚呼
幸ひこの法号を以て
幸ひこの法号あらてのなきも

同一流あさからぬ国とあまたはらとゝ言
ちかくて秋芝を探るゆとゝたちかの
明治廿七年八月於麻布
孫芝廼舎閲

和歌集遺稿
水戸景山公選
明倫哥集
其高弟著
俳諧八十六歌仙
迫刻
明治十四年十月廿六日届同年同月廿出版
編輯人 晋永機 東京府下小梅村六十四番地
出版人 柏蔭舎半造 浅草区須賀町十九号地